

総合流域防災事業 上前川

市原市



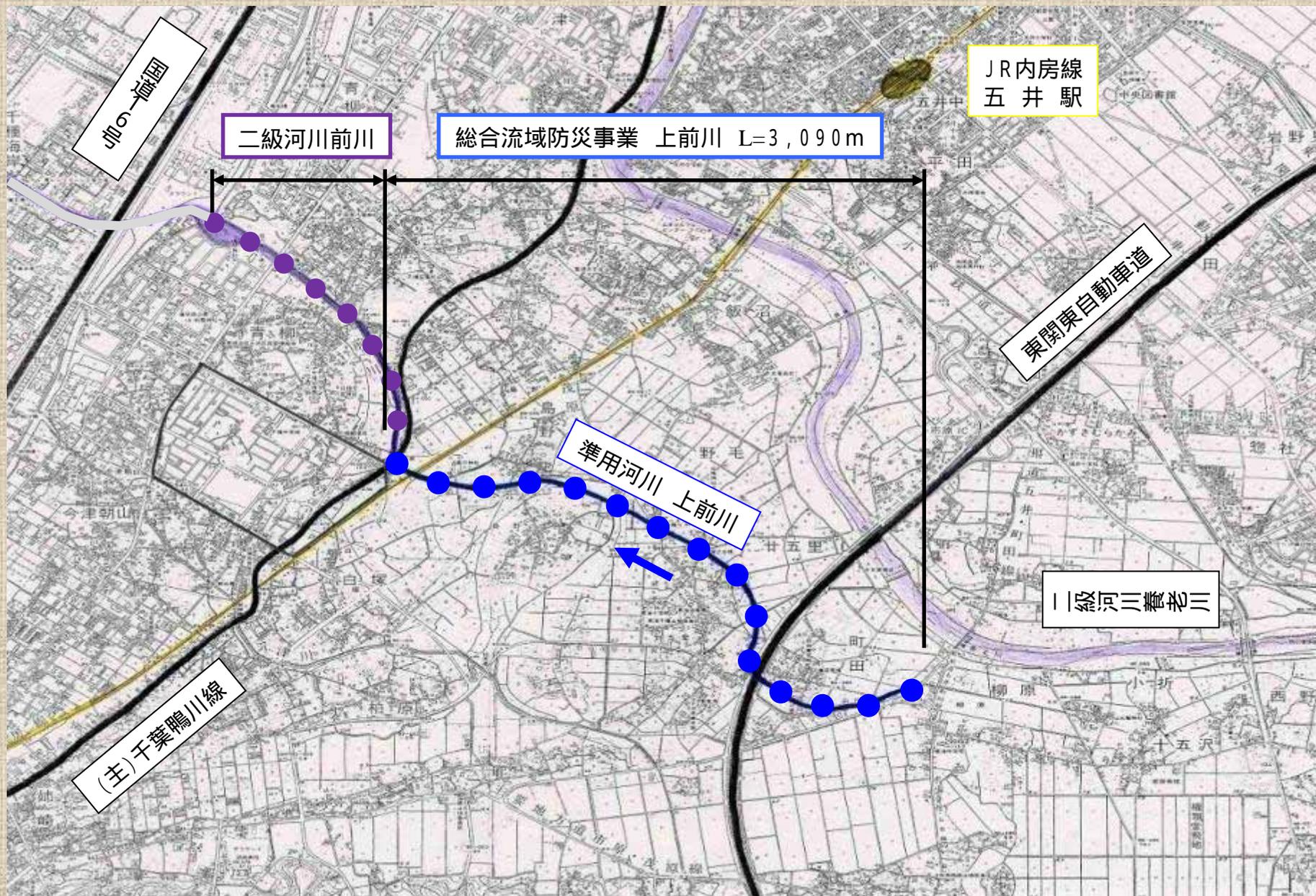
事業の概要

1. 千葉県河川図

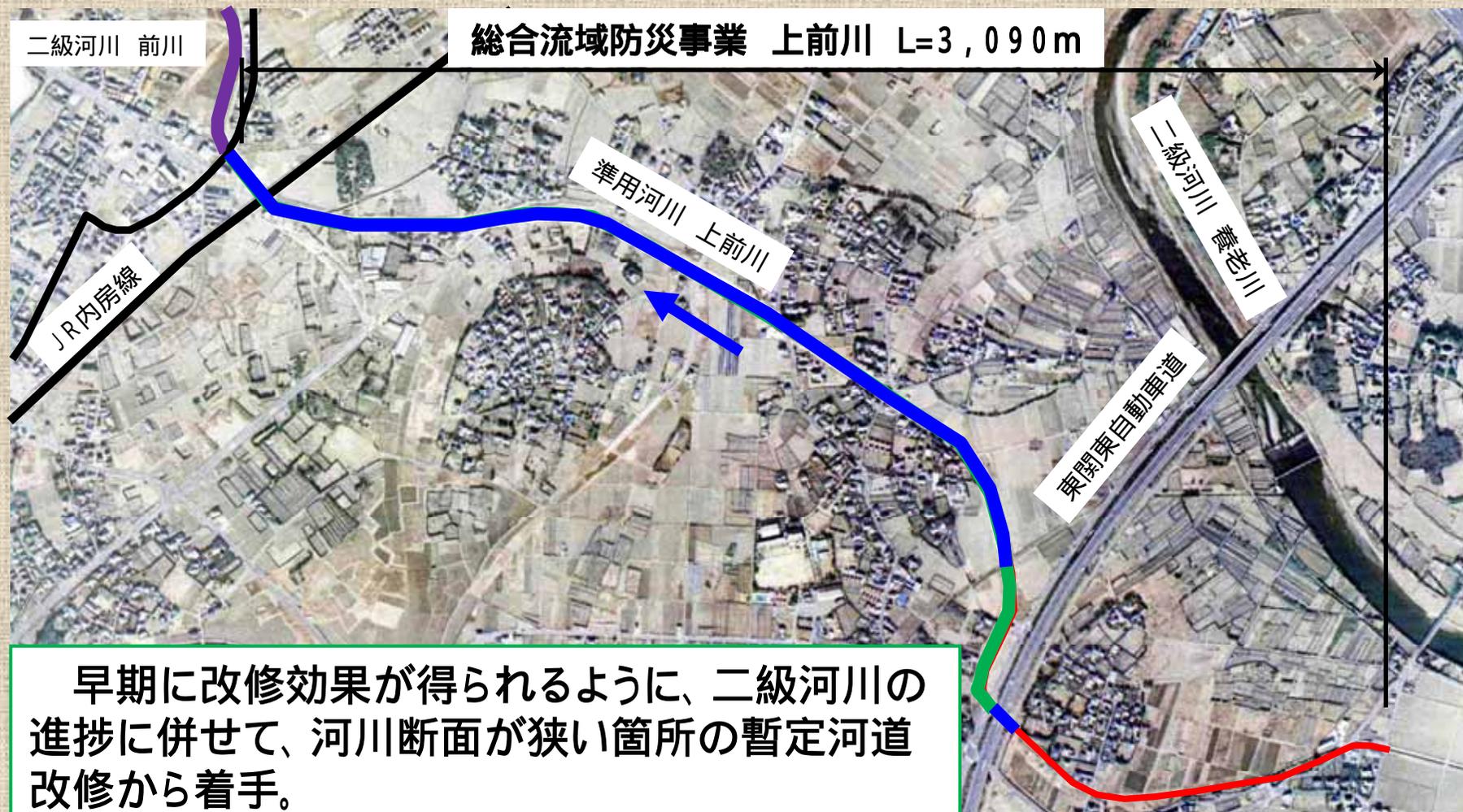


前川水系は、市原市引田地先にその源を発し二級河川養老川、準用河川今津川と流域をわけながらほぼ併走し、千種海岸地先で東京湾に注ぐ流域面積6.09 km²、河道延長5.1 kmの河川であります。

事業の概要



流域の状況

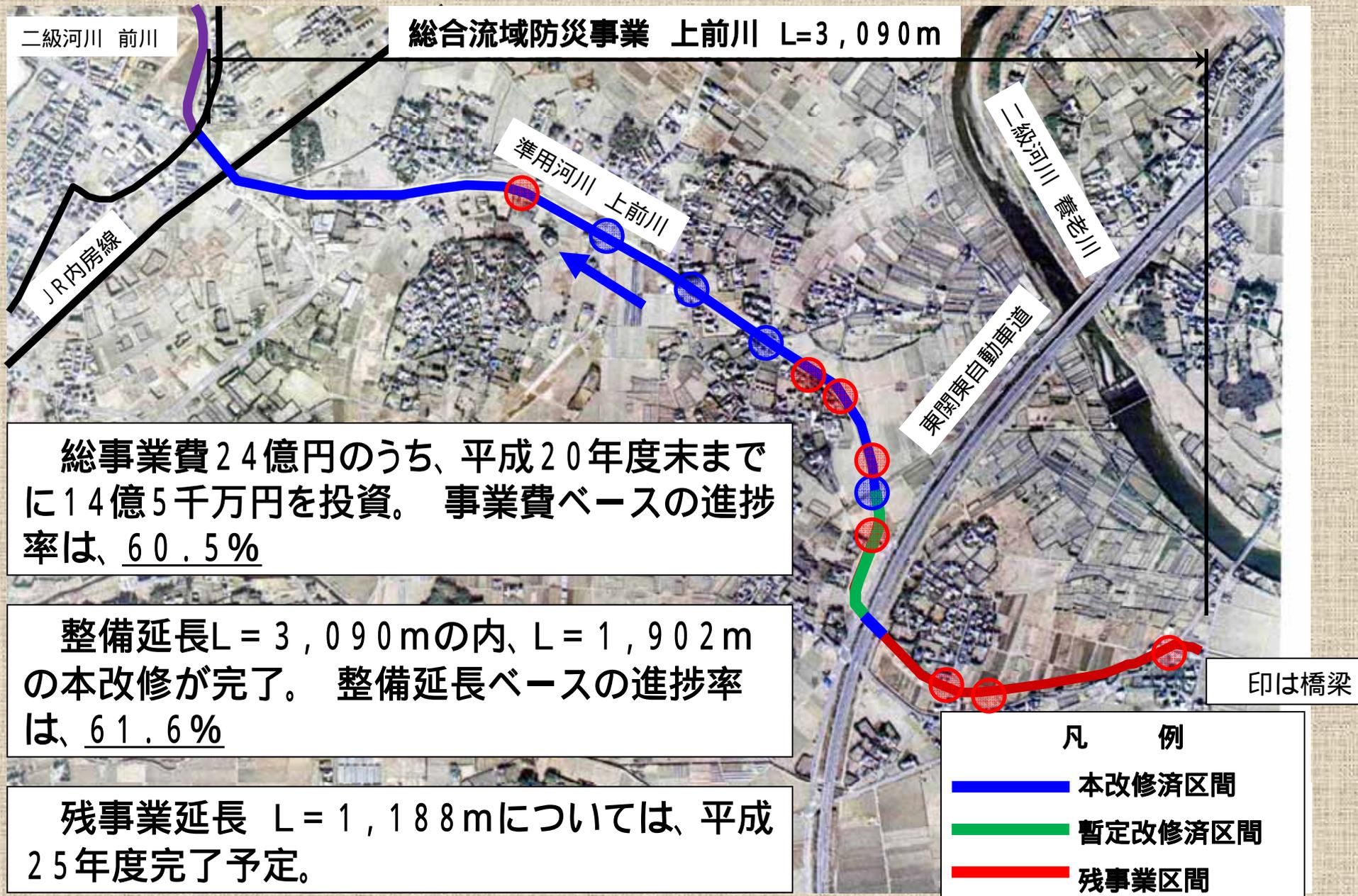


早期に改修効果が得られるように、二級河川の進捗に併せて、河川断面が狭い箇所の暫定河道改修から着手。

平成12年度に二級河川の整備が完了したことを受け、平成14年度から流下能力の向上を図るため、下流区間より本改修を実施。

凡 例	
	本改修済区間
	暫定改修済区間
	残事業区間

事業の進捗状況



総事業費24億円のうち、平成20年度末までに14億5千万円を投資。事業費ベースの進捗率は、60.5%

整備延長L=3,090mの内、L=1,902mの本改修が完了。整備延長ベースの進捗率は、61.6%

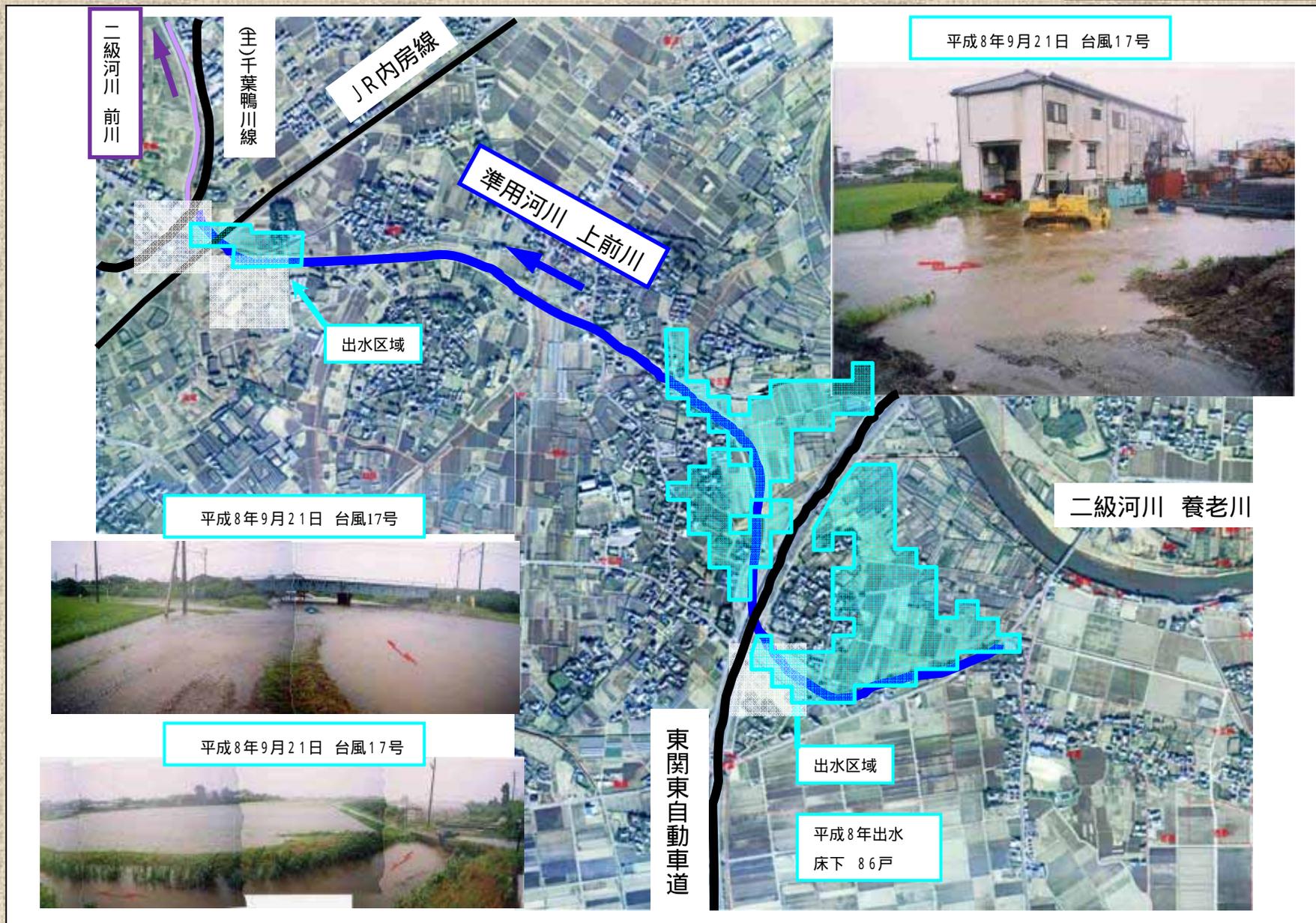
残事業延長 L=1,188mについては、平成25年度完了予定。

社会情勢

等

浸水被害状況

平成8年出水
床下浸水86戸



社会情勢

等

浸水被害状況写真

平成8年9月21日 台風17号



平常時(平成14年度改修済)



平成8年9月21日 台風17号



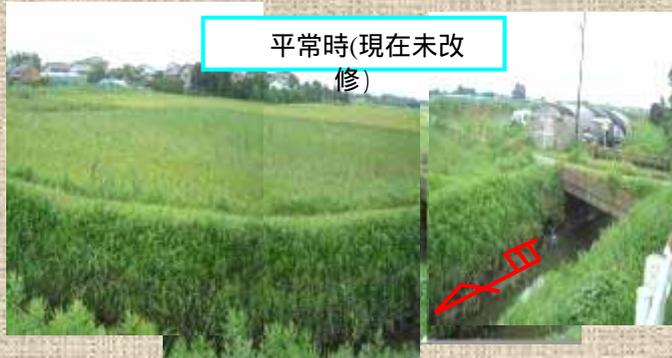
平常時(平成15年度改修済)



平成8年9月21日 台風17号



平常時(現在未改修)



整備事例

整備前



下流部



流下能力 整備前 3 ~ 15 m³/sec
整備後 31 ~ 39 m³/sec

整備後



整備前



中流部



整備後



河川環境



『多自然川づくり』により
魚がもどってきています。



法面や河床を自然形態
のまま残しています。

治水・環境のバランスのとれた親しみ
やすい川を目指しています。



コスト縮減策

改修事業は、以下の特徴を有する。

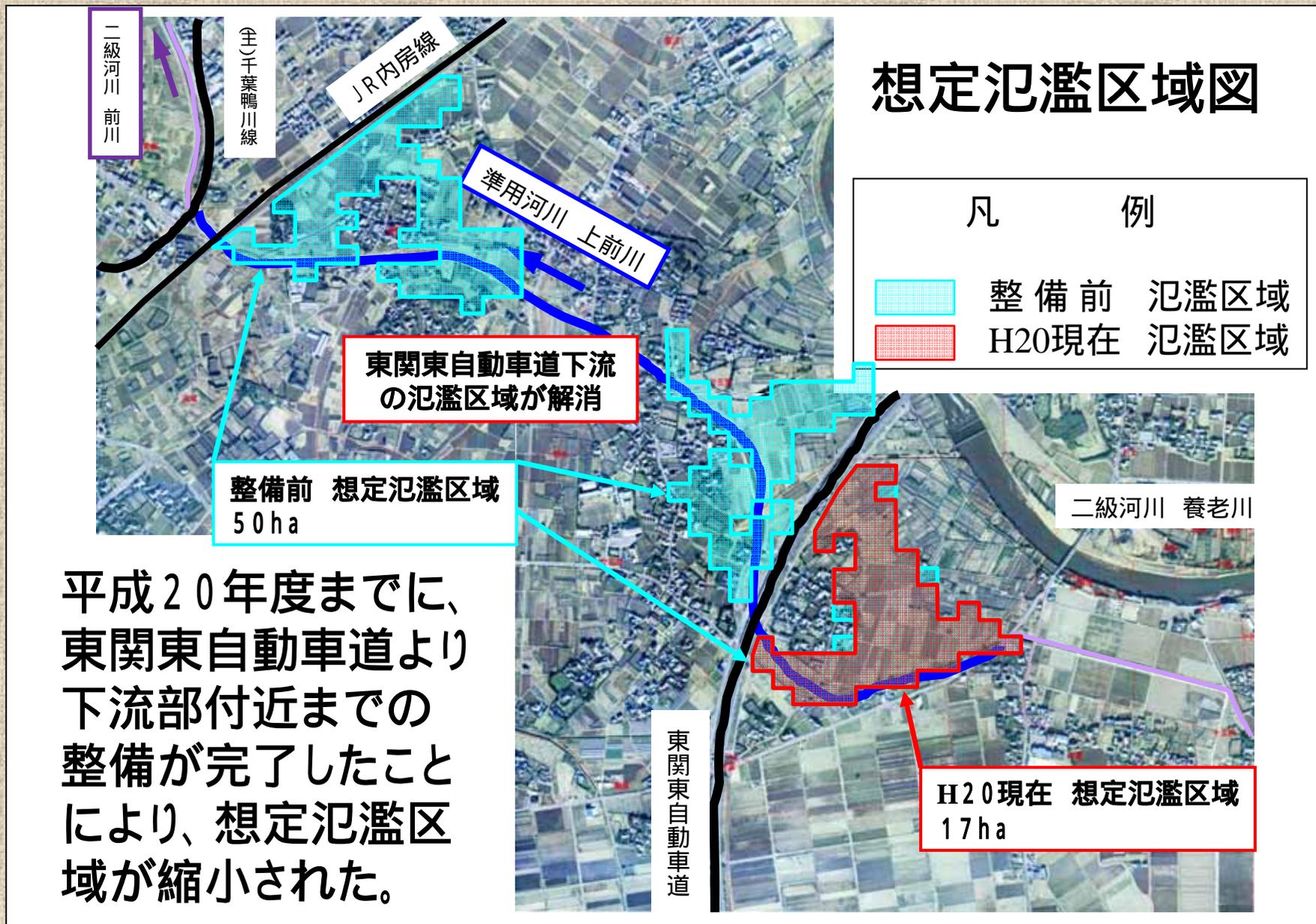
現況河道を利用していることから最も経済的

橋の統廃合

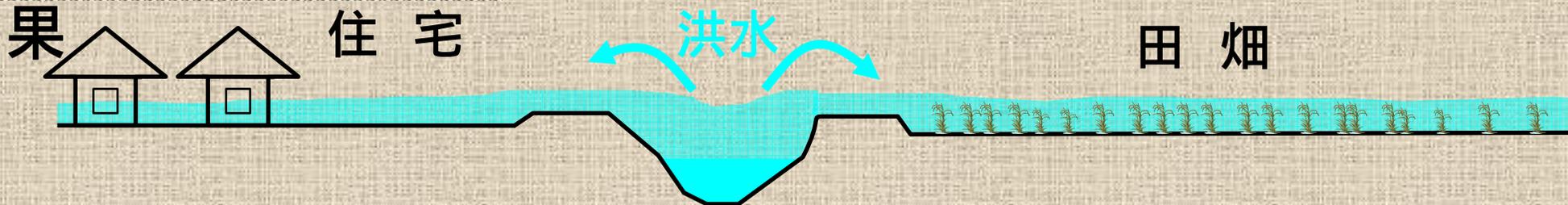
最小限の護岸構造物

発生土の工事間流用

事業の投資効果



事業の投資効



総便益 (改修前)

総便益 (被害軽減期待額) (B) = 20.61 億円



一般資産被害 (家屋、事業資産等)

公共土木施設被害 (道路、橋、電力、ガス、水道等)

間接被害 (営業停止損失、清掃労働対価等)

残存価値 (用地、
構造物等)



総費用 (改修後)

総費用 (建設費用) (C) = 9.79 億円



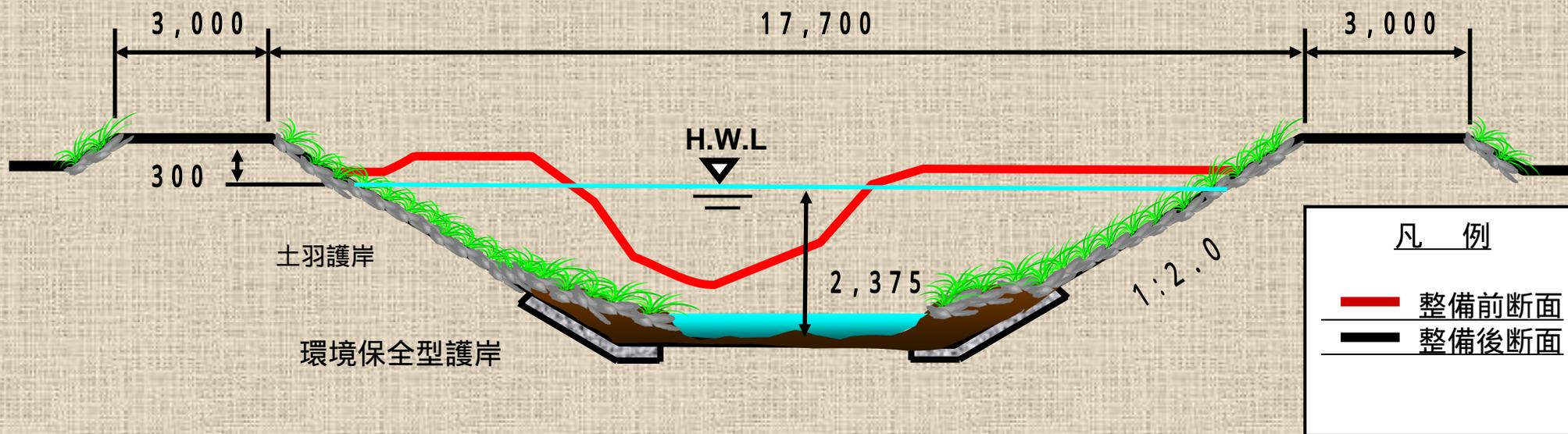
河川改修事業費

維持管理費 (草刈等)

事業の投資効果

果

流下能力 整備前 3 ~ 15 m³/sec
整備後 31 ~ 39 m³/sec



費用便益比



総便益 (B) / 総費用 (C)

20.61億円 / 9.79億円 = 2.11

対策方針(案)

本事業は、人家や耕地等の財産及び居住者の生命、鉄道や道路などの重要交通網を保全する事業であり、地域の生活に密着していることから、地域住民からは、事業に対する期待は大きく、早期完成が強く望まれている。

当該河川は、流域内の全住民が安心して暮らすことのできる川づくりが急務となっていることから、今後も未改修区間の河川改修及び、橋梁の架け替えを実施し、早期完成を目指し事業を継続する計画である。